

# 検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報 [号外] 2009年4月16日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合) 【No.4】

## 驚愕の“革マルアジト解析資料”は真実だ！

前号で1996年8月に警視庁公安部が革マル派の「綾瀬アジト」を摘発し、押収した多数の重要資料を基に作成したとされる警察資料の概要が、宗形明著「異形の労働組合指導者『松崎明』の誤算と蹉跌」に記載されたことを述べた。今後の検証で、この資料を引用していくにあたり、その内容をめぐる評価について、少し詳しく説明しておきたい。

昨年7月24日、四茂野修・前JR総連副委員長（現国際労働総研監事）が西岡氏と東京都を訴えた裁判の本人尋問が開かれた。四茂野氏は、「これ（当該文書）は警察当局が作ったものだと思っているんですか」との被告代理人の質問に対し、「その可能性が非常に高い。もし、そうでない場合にも、警察の捜査情報を基にしなければ作れないものだと思っております」と証言した。JR総連・東労組は、この資料の内容は間違っていると主張しながらも、警察が作成したか、警察情報に基づいたものであることをはっきりと認めている。

### 裁判所も国会答弁との一致などから内部文書の信憑性を認める！

当該裁判の東京地裁判決（11月19日）で、裁判所はこの資料について以下のように判示し、西岡氏がJRへの革マル派浸透を真実だと判断したのには相当の理由がある、とした。

本件資料は、警視庁が平成8年に革マル派の綾瀬アジトを摘発した際に入手した押収資料を分析した結果を踏まえて作成されたものであり、平成16年8月26日、これを被告西岡が警視庁の警察官から入手したものであるところ、本件資料には、JR東労組の会長がいまだに革マル最高幹部であること、JR東労組及びJR総連と革マル派との関係、JR東労組及びJR総連内部に革マル派の秘密組織として「トラジャ」、「マングローブ」が存在すること等が具体的に記載されている。そして、その内容は、警察庁の警備局長が、平成12年11月7日から平成14年12月4日にかけて、衆議院及び参議院の委員会において、国会議員の質問に対し、複数回行われた革マル派がJR東労組内に相当浸透している旨の答弁内容と一致し、さらに、内閣総理大臣が、平成15年3月18日及び平成18年5月12日、参議院議長に対し、同内容の答弁を送付している。したがって、被告西岡が、良くなる会のリスト等と上記各資料を基に、JR東労組及びJR総連に革マル派が相当浸透し、革マル派の秘密組織として「トラジャ」、「マングローブ」が存在するという事実について、真実であると判断したことには、相当の理由があるというべきである。

このように、資料の内容については、政府の答弁書や警察の国会答弁等と一致していることから、常識的には、きわめて信頼性が高いと考えるのが普通だろう。こうした背景を前提に、次号からの検証内容をお読みいただきたい。

ここで、宗形氏の本にある資料概要の記述の冒頭部分を紹介する。

「綾瀬アジト」の摘発と押収品分析の結果、昭和38年2月の革マル派結成以来の議長である黒田寛一と副議長と言われているJR東労組会長の松崎明は、現在も革マル派の最高幹部であり、組織内では絶対的な権限を有していることや、革マル派との無関係を強調しているJR総連には、以前の「国鉄委員会」に替わる革マル派組織の「JR委員会」があり、革マル派によって運営されていることが明らかになった。